

若手職員意見交換会・市民の集い・エイジフレンドリーパートナーの集い 意見取りまとめ

【領域1】 空間環境基盤

領域別施策1 中心市街地と6つの地域中心を核としたコンパクトなまちづくり
 領域別施策2 地域の移動手段の確保
 領域別施策3 安全・安心で、雪に強いまちづくり

黒:若手職員意見交換会
 茶:市民の集い
 紫:パートナーの集い

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理想	課題	理想を実現させるための具体的な方法(例示)
【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】 ・公共交通機関 ・公共施設 ・コンパクトシティ ・一か所への機能集約 ・CCRC構想 ・移動手段の確保 ・安心安全 ・除雪 ・中心市街地 ・コインバス ・空き家 【論点】 秋田らしいコンパクトシティ 【方向性】 ・安心・安全に配慮した土地利用・社会基盤整備 ・社会基盤・公共施設の適切なマネジメント	担い手不足、人材不足			
	地域コミュニティの再構築	・もっと外出できる機会(環境)があること ・中心市街地や各市民サービスセンターを核とする各地域に活気があること ・空き家、空き地を活用した居場所が身近にあること	・中心市街地や各地域の活性化が必要。 ・空き家、空き地の増加。 ・施設入居、死亡により空き家が増えている。(住所はあるが不在のケースがある。)	・若者や学生を対象に、空き店舗への入居やリノベーションに対して補助金を出す(中心市街地)。 ・もっと遊びたい、外に出たいというニーズに応えるために、イベントを実施したり、集まる拠点を作る。 ・廃校や空き家を活用したサロン・憩いの場。(借り上げ、修繕等による場の整備)(山村地域は幹線道路沿いの空き家が利用しやすい)。 ・空き地、空き農地は「家庭菜園」、「〇〇農園」として活用する。 ・空き地に自由に花を植えられるようにする等、いこいの場づくりを進める。
	ビジネスの新たな展開	・地域資源の有効活用し、次世代に継承していくこと	・地域にある資源の活用不足 ・セリオンをもっと活性化する必要がある。 ・港御蔵などの建物をすぐに壊してしまい、大切にできなかった。	・地域の歴史に詳しい高齢者を活用し、秋田城、土崎地区の空襲跡地など、次世代に「残す」取組を行う。 ・老人クラブで保有する花壇を介した多世代交流を図る。 ・セリオン内に土崎地区の祭り(港曳山祭など)を紹介するコーナーを設ける。
	ハード面の解決	・秋田らしいコンパクトシティについて、行政、市民が共通認識を持っていること。 ・中心市街地と各地域を繋いだ多極分散型コンパクトシティの推進	・コンパクトシティについてイメージがわからない。	・関連部署が連携して取り組む。
		・各世代に伝わりやすい情報発信、タイムリーな情報発信	・中心市街地のイベント等の情報不足、周知不足。 ・高齢者に情報が行き渡っていない。	イベントの情報発信を効果的に行う(なかいちタウン情報(民営)、インスタグラム、フェイスブック等、誰でも気軽に投稿できる方法を活用する。)
		・アクセスしやすい公共交通機関 ・生活に必要な施設、エリアへのアクセスが良いこと ・バリアフリー化の実現	・近くに病院や診療所がない。 ・コミュニティセンターが近くにない。 ・近くに本屋がない。 ・駅前の拡張を行ったが効果が見えない。	・各サービスセンターを中心に病院や買い物など機能を集約し、それらをバスでつなげる。 ・バスなどの公共交通を充実させ、車を利用しなくてもいい環境をつくる。 ・免許返納した高齢者にバスの利用補助券のようなものを渡す。 ・バスに乗るとポイント(例えばほっぺちゃんカード)が貯まる。 ・地域住民同士で乗り合いをする。 ・UBER(ウーバー)システムを活用する。 ・電動シニアカーを活用する。 ・中心市街地に病院、学校、介護施設を設置する。 ・小学校の統廃合により朝・夕にスクールバスが運行しているが、日中用途がないため、高齢者の外出促進に活用する。 ・マイタウンバスを曜日ごとに用途を決めて運行する。
		・車を使わなくても、普段の生活に困らない暮らしができること ・車を所有している人もしていない人も、運転できない人も不自由ではないまち ・利用しやすい公共交通機関(バス)	・秋田駅周辺、中心市街地への一極集中化。 ・路線バスの減少(コインバスが会っても本数が少なく、使い勝手が悪い)。 ・コインバスは発想が良い。病院と買い物できる場所への直通便があればもっと良い。 ・コインバスは本数が足りず、乗り換えが大変。 ・バスが通っていないところはコインバスも利用できず大変。 ・バスは一時間に一本あれば充分。でもこれ以上無くならないでほしい。 ・福祉バスがほしい。 ・自動車利用を減らし、自分の足で歩くように。高齢ドライバーに自覚必要。免許更新時の判定の厳しさが必要 → 適性検査を頻繁に行う必要あり。 ・地域性から自家用車が不可欠だが、高齢者の運転が心配。 ・車問題。高齢者を行為で買い物や病院送迎してあげたいが、ダメ。 ・自家用車が使えないと外出ができない。バス停まで遠い。	
		・高齢者等が安心して、安全に移動できる環境づくり ・畑・庭いじりを気軽に行える場の創出・整備 ・安心して外出できる屋外環境 ・雪に強いまちづくりの推進	・街灯が少なく、夜道が暗い。(空き家、空き地、駐車場が増えたことも原因)。 ・道路が狭い。 ・散歩中の休憩スペースがない。喫茶店などがあると良い。 ・雪のため、冬期間の移動が困難 ・昔は空き地一面に花が咲いていたのに、今は駐車場になってしまった。 ・堤防添いに花木が植えられていて散歩の楽しみだったが、除草剤が撒かれて、全部枯れてしまった。 ・小学生の通学が大変(廃校・統合によりスクールバスになった。) ・冬は雪が多く大変。 ・防災について、危機感が必要。 ・高齢者の除雪が難儀。	・融雪道路・歩道の充実、バリアフリー化

【領域2】 社会生活基盤

- 施策1 住民主体のコミュニティ活動の創出と推進
 施策2 高齢者の多様な能力を活用した地域における支え合いの推進
 施策3 多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進

黒:若手職員意見交換会
 茶:市民の集い
 紫:パートナーの集い

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理想	課題	理想を実現させるための具体的な方法(例示)
<p>【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの再構築 ・除雪や地域の課題の解決 ・自治会活動 ・民間企業の高齢化による人手不足を地域のコミュニティが担う <p>【論点】</p> <p>地域コミュニティの再構築</p> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアの構築 ・高齢者の生きがいつくりや健康づくり ・子育てや保育の支援等 	<p>担い手不足、人材不足</p>	<p>・町内活動などにおいて、各世代、バランス良く構成されていること。</p> <p>・行政、民間、町内が連携し、地域の活性化を図られること。</p> <p>・若者の活躍をつくり、Uターンを増やす。</p> <p>・地域での困りごと支えあうことのできる関係があること。(但しほどよい距離感。「つながりたけれど、縛らない関係性づくり」)</p> <p>・秋田の良さ、強みを認識し、しっかり発信できること。</p> <p>・人材育成、人材発掘のしきみがあること。</p> <p>・介助(世話)する人・される人が時と場合により入れ替わる(支え手と支えられる人が循環する)地域であること。</p> <p>・児童センターボランティアに子育て世代が積極的に参加してくれること。</p>	<p>・町内会の年齢構成のバランスが悪い。</p> <p>・高齢者が多い、少子高齢化。</p> <p>・地域行事がなくなった。</p> <p>・核家族が多い。</p> <p>・高齢者と子ども(とその親世代)の二極化傾向が見られる。</p> <p>・若い世代が県外に流出。</p> <p>・若者が結婚しない。早婚と未婚の二極化。</p> <p>・未婚者が増加。</p> <p>・町内に元気がないと、市全体の元気がなくなる。元気の波及は町内→地区→市。</p> <p>・町民運動会がなくなってしまった。</p> <p>・事業を行っても人が集まらない。</p> <p>・市で計画等を策定しても住民主体では進まない。市で引っ張って行って欲しい。</p> <p>・老人クラブが減少。</p> <p>・働いている人がおり、参加メンバーはいつも同じで盛り上がらない。</p> <p>・地域活動への子どもの参加を促す方法がわからない。子ども同士の繋がりが薄い。</p> <p>・年齢層で地域への関わり方、つながり方が異なる。メンバーの固定化。若者は行事に参加しない。世代間での価値観が違う。</p> <p>・若者が故郷に戻って来ない。</p> <p>・65歳以上でも動ける人がたくさんいるので、もっと外に出て頑張ってもらいたい。</p> <p>・もっと活性化させたい。</p> <p>・若い人が町内活動に参加しない。特に未婚者は町内活動に興味を持っていないようだ。</p> <p>・県営住宅の出入りが頻繁。特に若い世代。</p> <p>・二世帯、三世帯同居が少なくなり、高齢夫婦のみの世帯ばかりの町内がある。人が少ないため、地域活動ができない。</p> <p>・若い世代の加入がない。</p> <p>・人材が埋もれている。</p> <p>・町内活動への不参加。</p> <p>・町内活動をやりたがらない。</p> <p>・人材はいるが、地域活動やリーダーを避ける傾向。</p> <p>・新たに地域に住む人が町内会に入りたがらない。</p> <p>・地区の運動会への参加町内が少ない。</p>	<p>・祭り、除雪、運動会など、町内会と若い人材(企業の若手、スポ少年、道場などが連携する。</p> <p>・運動会などは、高齢者だけでは企画・運営が難しいため、学校による指導・支援を行う。</p> <p>・隣合う地域も参加するような取組をすることで、互いに補う。</p> <p>・地域を混ぜてイベントを行う。人材をシャッフルする。</p> <p>・町内会を活性化するにはパワーバランスが必要。40才以上になったら、誰でも役職につくのが当たり前。</p> <p>・町内会や地域活動を担っている70～80代と、退職間近の50～60代との役割の引き継ぎをスムーズにできる仕組みを作る。</p> <p>・町内会を見直し、もっと小さな集団をつくる。小さなグループを町内会に沢山つくり共助体制を整える。</p> <p>・防災について、民児協、町内、社協、自主防災が合同で実施する。</p>
		<p>・役員の負担が過度に重くない自治活動組織。</p> <p>・町内会、民生委員活動の内容、やりがいなどが広く認識されていること。</p> <p>・意欲、能力、経験を持つ人材を把握し、マッチングできること。</p>	<p>・町内会や民生委員の担い手不足</p> <p>・地域活動の負担の多さ</p> <p>・町内会、地区社協、民生委員等の兼務や長期化傾向→担い手がなくなる</p> <p>・仕事と地域活動の両立</p> <p>・地域の役割について、仕事を持つ人は平日の会議は出にくい。</p> <p>・仕事から帰るとすぐに町内の仕事で休む暇が無い。(しかし、地域活動から活力ももらっている、何とか頑張れる。)</p> <p>・町内会長が機能していない。</p> <p>・町内のことで高齢者の相談は、まず町内会長にすることが多く、行政に行き着くまで時間がかかる。</p> <p>・町内で誰が民生委員なのかわからない。</p> <p>・民生委員だけでは見守りに限界がある。24時間体制、特に夜間の見守り必要なのに。</p> <p>・民生委員が見守りする際、話し相手になったり、細かい用事を頼まれたり、結構大変。雪の中歩いて回るのは大変。</p> <p>・民生委員は、余り地域とのふれあいがなく、義務感で働いているように感じる。民生委員が機能していない。</p> <p>・個人情報保護が高齢者の孤立化を進め、安否確認や防災が難しくなっている。</p> <p>・個人情報保護法の観点から、地域活動がいろいろやりづらくなっている。</p> <p>・個人情報保護の関係で、民生委員も地域の人との関わり方が難しくなっている。民生委員のなり手がなくなってしまう。</p>	<p>・地域活動等は縦割りを解消して、横に連携することで引き受けやすくする。</p> <p>・会長や副会長を二年毎の任期として、分かる人が必ずいるようにする。</p> <p>・小学生など若いうちから、町内活動の必要生や楽しさを体験させ、教育する。</p> <p>・人材バンクを設立する。</p> <p>・シニア版シングルズカフェを実施する。目的は人材交流。</p> <p>・地域の人が困っていることを掲示する場を作る。→役に立てそう!と思った人が立候補したり、派遣される。</p> <p>・様々な分野(学校、農業、企業)の世代間交流をマッチングする。</p> <p>・何かやりたい人を引き出してマッチングするしくみをつくる。</p> <p>・高齢だから出来ないではなく、出来ることからやる。</p>
		<p>・有償ボランティア、NPOによる活動、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスなど多様な形でのボランティアが創出されていること</p> <p>・意欲、能力、経験を持つ人材を把握し、マッチングできること。</p>	<p>ボランティアの担い手不足</p> <p>・何でもかんでも無償でボランティアでやるのは限界があるので、行政が補助金を出してほしい。</p> <p>・児童センターでのボランティア不足(若手の人材)。</p> <p>・ボランティアするにも、PC、コピー、プリント作りなど時間やコストがかかる。</p>	<p>・地域おこし協力隊を活用する。</p> <p>・「地域コミュニティの要望」と「NPOなどの社会的活動」のマッチング</p> <p>・他地域の地域活性化に取り組む人を支援する。「秋田市内版地域おこし協力隊」</p> <p>・高齢者が学校で何か活動をすることで謝金として500円程度もらえるようにする。</p>

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理想	課題	理想を実現させるための具体的な方法(例示)
	地域コミュニティの再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代が交流できる機会があること。 ・シニア男性の活躍の場があること。 ・選択縁(脱血縁、脱地縁、脱社縁の友人同士のネットワーク)があること。 ・好きなことを一つ持つこと。 ・外出が増えるような趣味を持つこと。 ・リタイア後も、役割があること。 ・子ども、孫を介して親や祖父母が交流すること。 ・身体がきつくて外出できない人や人と関わりたくない人でも、人と交流したり繋がったりする機会があること。 ・ウォーキングや運動をしたり、話相手がいること。 ・隣近所に気軽に声掛けできる地域であること。 ・距離感を保ちながら、いざとなったら助け合える関係があること。 ・地域で活躍する準備を早い時期からしていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の機会が減り、つながりが希薄化している(特に外に出ないシニア男性が気になる)。 ・シニア男性が外に出ない。 ・高齢者がアクティブ派とノンアクティブ派に二極化している。 ・高齢者(特に男性)が外に出てこない。 ・隣近所の交流が少ない。 ・子ども同士のつながりが希薄化。 ・子どもが成長すると親同士のつながりが希薄化。 ・自分の親の世代の一人暮らし(特に女性)が数名おり、日常生活で困っていないか気がかり。 ・65歳以下のかたの暮らし方がわからない。接し方や見守り方がわからない。 ・男性はつるむことが難しい。 ・閉じこもりがちな人は外に出てこなくて、心配。 ・高齢者が多く、雪寄せ、木の剪定、草むしりが大変 ・男性は女性に優しく奥ゆかしい。恥ずかしがり屋。 ・男性は奥さん、子どもを大切にするが、外に余り出てこない。 ・男性はシャイですれ違っても挨拶がないことがある。 ・秋田の人は近県(山形や岩手)と違い、行動に移さない人が多い。 ・イベント等で、人集めする努力をしない。チラシ配布だけでは駄目。隣同士呼びかけ合ったり、家を訪問し、話して誘う工夫が必要。 ・行き詰まった時の行政の支援があるか不安。 ・地区にあった事業展開をしてほしい。 ・隣の人に気を遣って、自分らしく生きられない。 ・訪問しても出てこない。回覧板を回さない人がいる。 ・出てこない人をどうするか。 ・高齢者生活支援体制整備事業のワークショップでもたくさん課題がでたので、そちらも参考にしてはどうか。 ・子どもを通じてのつきあいは、子どもが大きくなると無くなってしまう。 ・60代と70代、80代の話が合わない。 ・高齢者が頑固で話を聞かないため、話し合いが面倒になり会長に一任してしまう。 ・最近はお茶のみも無くなり、挨拶を交わす程度。コミュニケーションが希薄になった。 ・住民同士の繋がりが希薄になった。 ・自分でできることも介護サービスを利用している。大切にせず？ ・近所に男性高齢者の独り暮らしが増えた。家事などの日常生活に困りがち。 ・女性に比較して男性の高齢者が孤立しがち。 ・高齢者の財産処分、相続の問題、認知症。 	<ul style="list-style-type: none"> ・団塊世代を活用する場所をつくる。 ・新しい祭りによる活性化 ・米づくり、農業体験による多世代交流。 ・地域住民が参加しやすいような、負担感(メンタル的にも仕事量的にも)がない行事の企画。 ・コミュニティスクールを開催する。地域版つむぎすと。人と人をつなぐこと。 ・スポーツを活用して交流する。(例1)トップスポーツの活用。高齢者を巻き込む。応援の仕方を教えるなど、(例2)外国人選手とその家族が地域住民と交流する機会をつくる、ホームステイ、料理教室など、(例3)除雪でスポーツ(横手市で実施) ・運動と社会参加(人との交流)を兼ねた継続性できる施策の普及・展開 (例1)「歩くべ!あきた!」を地域内や地域対抗等の形で定期的にイベント化し、全市に浸透・普及 (例2)そのほか、既存の体操、運動プログラムを仲間同士で実施できるよう工夫し展開 (例3)男性高齢者の参加率を向上させる工夫を考案 ・麻雀、音楽、飲み会、歌、釣りなどで男性の居場所をつくる。 ・空き地を畑にし、地域住民で作物を育て、コミセンで料理・食事を楽しむ。 ・婦人会で茶話会を企画する。 ・男性だけの会を作って活動する。 ・外出できない人を対象に、庭先でのおしゃべりやお茶のみを開いたりする、声掛けて外に誘う、そういったことをやってくれる人がいればいい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空き教室、町内会館を活用した、居場所づくりや様々な活動の拠点が地域にあること。 ・サロンをもっと楽しく、利用しやすくして、地域住民がつながること。 ・サロンを通し高齢者の安否確認ができるネットワークがあること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空き教室が増加。町内会館があまり使われていない。 ・町内会館があまり使われずもったいない。 ・サロンを活性化させたい ・サロンをもっと住民の日常生活に身近な存在にしたいが、特別なイベントのように考えたり、行けば何かを手伝わなければいけないのではないかと考える住民が多く、気軽に立ち寄れる感覚が醸成されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家や小学校の空き教室を活用してサロンをつくる。 ・空き家を寄付してもらい、地域で活用する。→ 空き家の活用を対象とした交付金の新設や地域づくり交付金の拡充。 ・市で空き家を買取り、地域コミュニティの活動に活用する。 ・利用頻度の低い町内会館を貸し出す。マッチングは行政で。 ・サロンに小さなサークルの先生に来てもらう。 ・東京都文京区の「こまじいのうち」を参考に、子ども、ママ、高齢者など世代を超えて人が集まることのできる居場所づくりを地区社協が進めている。曜日ごとにテーマを変えたり。 ・サロン、カフェ、集える場所など、地域の資源をまとめたMAPをつくる。 ・住民による認知症予防のためのサロン活動が重要。
	ビジネスの新たな展開	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がポイントなど有償でボランティア活動をし、そのポイントを使って楽しむことができること。さらに、地域経済の活性化につながる。 ・日常生活の支援など、シニアビジネスが創出され、地域の活性化につながっていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ人ばかり活動に参加する。 ・無償ボランティアでは担い手がいない。 ・特殊清掃は需要はあるが、広がらない方が良いビジネス。 ・空き家やメンテが大変な独居宅→売りに出すが若い世代の住み替えがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の活動に見返り(ポイント)を与え、地域通貨としてもつきり屋で飲んだり、商店街で買い物したりできるようにする。空き家を活用してもつきり屋をやる。 ・川反でワークショップをやる。地元にお金を落とす。 ・高齢者が学校で何か活動をすることで謝金として500円程度もらえるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行ける範囲に公園、活動の拠点があること。 ・バスの利便性がよいこと(マイタウンバスやスクールバスも含めて) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園やコミセンが遠い。 ・自宅の近くに公園がない。 ・空き家、空き教室が増加。町内会館があまり使われていない。 ・町内会館があまり使われずもったいない。 ・コミュニティセンターが遠い。 ・町内会館を使う機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと地域に合う公園の再配置。
	ハード面の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・活気があり、安全な地域であること。 ・安心して楽しみながら歩くことができる屋外環境であること。 ・多様な主体との協働による空き家対策が推進されること。 ・空き家について予防、解消、活用の取組が推進されること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が殺風景になってしまった、危険な場所がある。 ・空き家が多い。 ・空き家、徘徊者、商店街の衰退が目につくようになった。 ・夜道が暗くて危ない、人通り、車通りが少ない。街灯が少ない。 ・道路が狭い。歩道がなくて危険。 ・空き地や堤防の花が無くなってしまって寂しい。(空き地が駐車場になってしまった。) ・合併前と比べると行政と市民が遠い。 ・市役所で地域をリードする人がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防の草刈りをする。 ・花ゲリラをする。(空き地があれば花を植えたい。散歩中に種を持ち歩き、花を植える。) ・苗は買わなくても、持っている人からもらえばいい。

【領域3】 産業・経済基盤

- 施策1 超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出
 施策2 高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築
 施策3 地域課題解決につながるコミュニティビジネスの推進

黒:若手職員意見交換会
 茶:市民の集い
 紫:パートナーの集い

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理想	課題	理想を実現させるための具体的な方法(例示)
【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】 ・シニアを活用したビジネスの展開 ・コミュニティビジネスの創出 ・未来を支える人材力の強化(働き手自らの主体的なキャリアアップの取組支援) 【論点】 ビジネスの新たな展開 【方向性】 ・シニア向けの産業・観光を担う組織づくり ・起業環境の整備 ・秋田の資源を活かした商品開発(秋田ブランド)	担い手不足、人材不足	・後継者への引き継ぎについて、50代くらいから準備をしていること。 ・地域で活躍する準備をしていること。	・世代交代がスムーズにいかない。 ・農業の担い手が不足している。 ・人口減少、事業所の減少、雇用の減少。 ・空き家の増加 → 自社サービス利用者の減少(ガス)。	・後継者の世代交代をシステム化する。 ・退職後に自分の得意とすることを登録する「人材バンク」を開設する。
		ポイント制など、有償ボランティアがあるといい。	無償ボランティアではなかなか人が集まらない。	・組織活動に参加するメリットを持たせる。例えば、有償(ポイント制含む)ボランティアや活動内容に楽しみを持たせるなど。
	地域コミュニティの再構築	団塊世代および若年層が活躍する場がある ・高齢者や若者の活躍の場として、空き家、空き地を活用する ・子どもがのびのびと楽しく、社会性を学びながら成長できるまち	高齢男性の孤立化 ・家に閉じこもる人が多い。(特に男性) ・男性高齢者の独り暮らしが増えた ・女性に比較し、男性は孤立しがち	・団塊の世代を対象に、コミュニティビジネスやサロン活動の活性化を支援をする。例えば、活動団体をNPOなど組織化したり、あるいは既存のNPOのノウハウ、ネットワーク等を活用したりすることで、高齢者が役割を持ち、社会参加・生きがいづくりが推進される他、若者の雇用を生み出す。 ・サロンの場を利用し、事業者による製品/サービスPRの場を兼ねる等、お金を生む仕組みを
	ビジネスの新たな展開	・何歳になっても、本人が希望すれば雇用や活躍の機会がある社会 ・上手くお金が回る社会(若者も高齢者も収入を得て、使える社会) ・シニア自身がシニアビジネスに参入	・高齢者が有償で活躍できる場が少ない。 ・高齢者や若者がお金を使わない。 ・農業の担い手が不足している ・人口減少に伴う事業所減少により、働く場が減少 ・雇用枠が減少。高齢者が働ける場所が少ない。 ・(秋田に)もう一度来ようという気にならない。 ・超高齢社会の到来への関心が薄い。 ・秋田はサービススタンダード(サービスの品質、標準)が低い。	シニアを活用したビジネスを展開させる (1) 高齢者モニターサービス ・高齢社会のトップランナーであることや、30万都市の人口を活かし、全国の「シニア向け商品・サービス」開発企業からモニター依頼を受ける。モニターはポイント制などにし、高齢者にインセンティブを与える。 (2) 秋田野菜(例)のブランド化 ・高齢者が主体となって農業で秋田ブランドを作り、県外へ宣伝する。高齢者それぞれが得意分野を活かし、農作業、加工、広報、梱包、運送などの作業を分担する。外に出てこない男性高齢者に野菜を収穫した後の作業(袋詰めなど)をしてもらう ・雄和地区の資源であるダリアの活用を図る。 ・セリオン内のうどん・そば自販機を活用したイベント・町おこしなどの実施 ・美大施設(カフェなど)の活用 (3) 定年や再雇用期間の延長 ・定年を65才に、再雇用は65才~75才程度にする。 ・企業は採用の際、65才以上の採用枠を設ける。 (4) 高齢者と高齢者予備軍(55歳~)による起業への支援 ・研修会の開催(パートナー研修会と同時開催?) ・起業を相談する窓口の設置(または既存の窓口があるなら積極的に周知・PR) ・秋田および日本のシニア市場動向等のお役立ち情報提供(ニーズ調査の結果等) ・ビジネスのアイデアコンテストを行い、優秀なものには資金面で補助を行う ・空き家をオフィスとして貸し出し実施
	・シニア向けサービスの充実により、産業の活性化と高齢者が暮らしやすくなる。 ・誰でも気軽に参加できるビジネスがあること ・行政で行うサービスをより自由に地域で行う	・高齢者の不安・不便を解消してほしい ・高齢者の暮らしの不便を解決して欲しい。まだまだビジネス参入の余地はあるのでは。 ・健康寿命を延ばす必要がある。 ・独居高齢者や高齢者のみ世帯の除雪が困難なケースがある。	シニア向け産業の可能性 (1) 高齢者・高齢社会の問題解決ビジネス ・高齢者相談専門のサービス業(日常の困りごとなど、何でも屋)。 ・地域困りごと解決策アイデアコンペを実施する→他団体に実際にやってもらう。 ・知識・経験のある高齢者を他県に出す。 ・健康寿命を延ばす製品(食品)の開発 ・高齢者の食べる楽しみを継続させるために、口腔・歯のケアを充実させる。 (2) 既存の飲食店や娯楽施設をシニア向けに活性化させる ・シニア版「シングルスカフェ」・・・高齢者同士の交流や出会いの場。会場や時間は多様に。地域サロンでお酒。シングルに限らず、友達づくりの場として。 ・カフェ、居酒屋、遊戯施設をシニアの商業の場として発展させる→地域経済の活性化→一次世代の雇用の場の増加につながる。 (3) 高齢者福祉ビジネス(住宅、宿泊、交通、公共機関) ・買い物弱者への送迎サービス。家庭への宅配ではなく、買い物に連れて行くサービスを充実させることで、介護予防につなげる。 ・民間交通サービスUBERを活用し気軽に外出できるようにする。 ・独居高齢者宅の除雪を、企業の若い世代がサークル活動(ボランティア)として実施し、自社製品/サービスのPRの場も兼ねる。または、除雪をスポーツとしてイベントを開催 (4) 既存事業で行き届かないところをカバーするビジネス(既存事業の例:シルバー人材センター、介護支援ボランティア、町内会を支援する事業)	

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理想	課題	理想を実現させるための具体的な方法(例示)
		商店街の活性化、お金が回る	・商店街の衰退	以下二つは再掲 ・高齢者の活動に見返り(ポイント)を与え、地域通貨としてもつきり屋で飲んだり、商店街で買い物したりできるようにする。空き家を活用してもつきり屋をやる。 ・川反でワークショップをやる。地元にお金を落とす。
		高齢化の先進地で、超高齢社会の到来を踏まえた今後のビジネス展開を考える	・事業者が超高齢社会に関心がない(または知識がない) ・秋田にもう一度来ようという気にならない。 ・サービススタンダードが低い。	中小企業、個人事業を対象とした、啓発と教育の充実化 ・超高齢社会への危機感を認識し、課題と可能性を啓発するための研修等の開催 ・サービス業/ホスピタリティマインドの教育支援(高齢者にやさしい「おもてなし」→他の世代にもやさしい) ・独立商圏ではなく、販路を県外・海外に向けるための情報提供や支援(製品開発、マーケティング、営業等)
	ハード面の解決			

【領域4】 教育・文化基盤

施策1 生涯を通じた文化・スポーツ活動の推進

施策2 多世代が交流し、支えあう地域づくり

施策3 秋田に誇りと愛着を持つひとづくり

黒:若手職員意見交換会

茶:市民の集い

紫:パートナーの集い

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理想	課題	理想を実現させるための具体的な方法(例示)	
<p>【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のスキル活用 ・人材の確保と育成制度、教育のブランド化 <p>【論点】</p> <p>担い手不足、人材不足</p> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアスポーツの活性化 ・地域リーダーの育成支援 ・シビックプライドの醸成 <p>*シビックプライド</p> <p>市民が自分の住んでいる、働いている都市に対して「誇り」や「愛着」を持って、自らもこの都市を形成している1人であるという認識を持つことです。</p> <p>日本人が古来より持っている「郷土愛」とは意味合いが異なり、より積極的に都市に関わっているという意識を持つのがシビックプライドです。</p>	担い手不足、人材不足	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生が卒業後、県外に流出せず、地元で活躍できること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手となる(若い)人材を確保する必要がある。 ・高校卒業後/大学卒業後に、若者が県外に流出してしまう。 ・若者が故郷に戻ってこない。 ・担い手の高齢化(若い世代の担い手がいない)。 ・夏のおけさ踊りでは担い手不足。 ・地域に子どもがいない。 ・超高齢社会の到来に関心がない。 ・高齢者が自分らしく最後まで暮らせる環境。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田暮らしの魅力づくり ・魅力ある就職先、起業支援 ・ワークライフバランス、コスパの良い生活等秋田暮らしの魅力をPR 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・住民一人ひとりにCivic Prideが育まれていること。 		<ul style="list-style-type: none"> ・秋田の地域教育(文化、歴史、産業の教育、地域行事への参加、ボランティア活動等)を充実させ、幼い頃からCivic Prideを醸成 ・高齢者を指導者として活用することにより、活躍の場の創出、世代間交流も促進 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化の担い手育成のために、中核となる指導者がいること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(人材がいたとしても)担い手として育て上げる制度・環境が不足 ・人材はいるが、誰もリーダーをやりたいがらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者認定制度の確立 ・指導者を必要とするジャンルにおいて、一定の知識・経験を持つ人が試験と研修を受け、市認定の指導者資格を持つ。 	
	地域コミュニティの再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人がつながる場があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の人と人とのつながりが薄い。 ・地域に子どもがいない ・世代を超えた関わりがない ・子ども同士のつながりが薄い ・認知症対策には、図書館通いよりも運動や話し相手がいることが大事 ・男性高齢者の孤立化が目立つ ・まつりは人が集まる良い機会だが、予算の関係上規模が縮小 ・男性の人生が会社(仕事)になってしまっている。 ・高齢者予備軍が勉強する場が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えたつながりを強化する施策の実施 ・地域の高齢者を講師として、秋田市の地域教育(文化、歴史、産業等)を実施 ・地域の人と学校の交流を増やすイベント/行事の実施 例) 地域の文化や遊びを伝えるイベント、町内運動会と学校とのコラボ、農園活動など。 ・民生委員/町内会などによる子ども会活動の活発化を促進 ・若い世代と高齢者の共通の趣味や、男性高齢者が関心を持つサロンの創設を支援(または既存のサロンを利用) ・つながりを創る場の確保 ・学校内に地域の人が利用できる場所を創る ・廃校や空き施設、児童センターを利用して子どもと高齢者が交流 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化的行事・イベントを無理なく継続する方法をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化的行事・イベントが衰退。 ・祭りをやめるのは簡単だが、始めるのは難しい(大変だが、継続したい)。 ・町内運動会がなくなった。 ・町内運動会への参加が少ない。 (「担い手不足」(若い世代の流出)とも連動)。 ・セリオンで、土崎湊祭りを紹介し宣伝する機会やコーナーがない。もっと情報発信した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足/参加者不足の解消 ・地域内の繋がりの強化。閉じこもりがちな住民と、民生委員や地域住民が日常的なコミュニケーションの強化を図る。 ・他町内や団体と類似イベントの共同開催(または、互いの行事・イベントで助け合う体制を構築) 例) 町内運動会 → 隣の町内と合同(対抗)、または圏域内、秋田市全体・・・など合同開催 ・町内外/市内外問わず、外部から文化的行事に参加/手伝ってくれる人を募集(地域おこし協力隊員を投入?) ・地域の小中学校と連携し、地域の人と学校の交流を増やすイベント/行事を実施 例) 学校教育の一環として地域の行事に子どもたちが参加 学区内の町内と運動会を共同開催 ・担い手の確保・育成(若者のUターン促進、指導者の育成、等) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習としての教え合い・学び合いの場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の活躍の場が不足 ・児童センターでのボランティアが不足 ・地域で「好きなこと」をやりたい。しぼられたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が気軽に誰でも先生になれる、誰でも学ぶことができる機会/場を創出 ・サロン活動の一環として、高齢者が教える/学ぶ機会を創出支援 例) スマホ、洋裁、手芸、ダンス、音楽、麻雀、健康教室、ガーデニング等 ・ボランティアセンターを通し、「こんなことができます」掲示を出し、スキルを必要としているボランティア先とのマッチングを図る。 ・サロン活動を越えた社会活動への発展支援(関連団体との連携) 例) ガーデニングを学ぶ → 町を花でいっぱいにする活動につなげる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の見識やスキルを、地域ボランティアで役立てるシステムを構築する。(人的支援のマッチング)。また、ボランティアは完全無償ではなく、ポイント制/有償とし、継続への動機付けを図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・シニアボランティアバンクの設立 ・退職後に登録(65歳以上)し、高齢者が持つスキルと地域活動のマッチングを行う。 → 審議会委員DBなどの市が持つ既存DBを利用できないか? ・ボランティアポイント制度の拡充と整備 ・介護支援ボランティアのポイント制度を、他のボランティア活動にも拡充。 ・個人のボランティア履歴など一元管理できる仕組みを作る。 	
	ビジネスの新たな展開	<ul style="list-style-type: none"> ・教育水準の高さや、子どもを育成するにあたっての環境の良さをブランド化し、新規ビジネスおよび人口減少対策に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力テストトップクラス」という優良点を活かしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な小・中学校をブランド化し、移住者を増やす。 ・東京/近郊にある有名私立小中高を誘致し、秋田校を創設する。 ・夏休みなどに勉強合宿ツアー(勉強と自然を満喫)を誘致 	
	ハード面の解決				